

# 伝馬町・川原町 Q&A

## Q. 川原町の町名の由来は？

**A.** 川原町は、久左の辻を中心に、銀座商店街の東半分から花しょうぶ通りの途中までの地域の旧町名です。現在は芹川と距離がありますが、彦根城築城前はこの付近を流れており、そのなごりが「川原町」という町名です。また、現在の長松院の場所が芹川の中洲だったことが分かっています。

## Q. 銀座商店街ってどんなところ？

**A.** 川原町・土橋町は、江戸時代から商業がさかんなところでしたが、近代になってさらに発展し、彦根銀座と呼ばれるようになりました。昭和8年には滋賀県初のデパート、マルビシ百貨店が創業し、映画館ができるなど、もっとも活気のある繁華街となりました。昭和36～48年、木造の町並みを取り壊し、道路を拡幅し、鉄筋コンクリート4階建ての防災街区が建設されました。11月のえびす講の大売出しは、現在も秋の風物詩として親しまれています。



昭和のなごりが多く残る場所です

## Q. 伝馬町はどんな役割の町だった？

**A.** 彦根城下町には中山道が通っていないため、鳥居本宿、高宮宿と城下町を結ぶ道（彦根道）がつけられました。彦根道は外堀の内側（外曲輪）に引き込まれていて、その中心に位置する伝馬町は、宿場町のような役割を担っていました。馬25疋、人足25人が用意され、公用の荷物を鳥居本・高宮まで運んでおり、城下町の物流の拠点として機能していたのです。ただし、普通の宿場町とは違って、参勤交代の大名や旅行者が通るわけではないため、宿泊施設（本陣、旅籠）はありませんでした。



## Q. 千代神社はなぜ現在地にうつったの？

**A.** 千代神社は、もともと佐和山南麓の姫袋（現在の古沢町）にありましたが、1585年、彦根山東麓の尾末にうつされます。江戸時代になって彦根城が築かれると、再びもとの姫袋に戻され、このときに現在の国の重要文化財の本殿が造営されました。ところが、昭和の高度成長期になるとセメント工場の公害に悩まされるようになり、昭和41年、旧大橋邸の土地が提供され、現在地に遷座しました。このように時代の影響を受けて遷座を繰り返しながらも、人々の信仰を集め、大切に守られてきたのです。



古地図で楽しむまち歩き  
ぶらひこねマップ コース **5**

江戸時代、中央商店街は「伝馬町」「通り町」、銀座商店街は「川原町」「土橋町」という名前でした。当時から城下町の商業の中心地で、たくさんの人やモノが行き交ったところでした。江戸時代の古地図「御城下惣絵図」を持ってまちを歩き、商店街とその周辺に残る昔ながらの路地を発見してみましょう！



## ぶらひこねマップ的 まち歩きのポイント

### 1. 商店街を楽しもう！

江戸時代創業の老舗から、若い店主のこだわりの店まで、新旧様々なお店が並んでいます。店主との会話を楽しみながら、商店街歩きを楽しんでみてはいかがでしょうか。

### 2. 懐かしい看板がいっぱい！

商店街には、昔懐かしい昭和の看板がたくさん残っています。特に、普段は視界に入らない商店街のアーケードの上を見てみると、発見があるかもしれません。



### 3. 路地の魅力を発見！

商店街は道路が拡幅され、ビルが建ち並んでいます。路地に入ると江戸時代の町割がよく残っています。「御城下惣絵図」を見ながらまちを歩くと、このことが実感できるでしょう。古い建物や鐘馗さん、お地藏さんなど、路地ではたくさんの宝物を発見することができます。



## 伝馬町・川原町エリアへのアクセス

JR・近江鉄道 彦根駅から徒歩約15分



## 「ぶらひこねプロジェクト」とは？

まち遺産ネットひこねは、彦根のまちに残る歴史的な遺産を再発見し、紹介していく市民団体です。これまでに「鐘馗さんマップ」「彦根城外堀マップ」「花しょうぶ通りマップ」「七曲がりマップ」を制作し、古地図を使ったまち歩きの楽しさを発信しています。

まち遺産ネットひこねホームページ  
[http://www.geocities.jp/machiisan\\_hikone/](http://www.geocities.jp/machiisan_hikone/)



2014年9月21日 初版発行

制作 まち遺産ネットひこね（文・写真 鈴木達也）

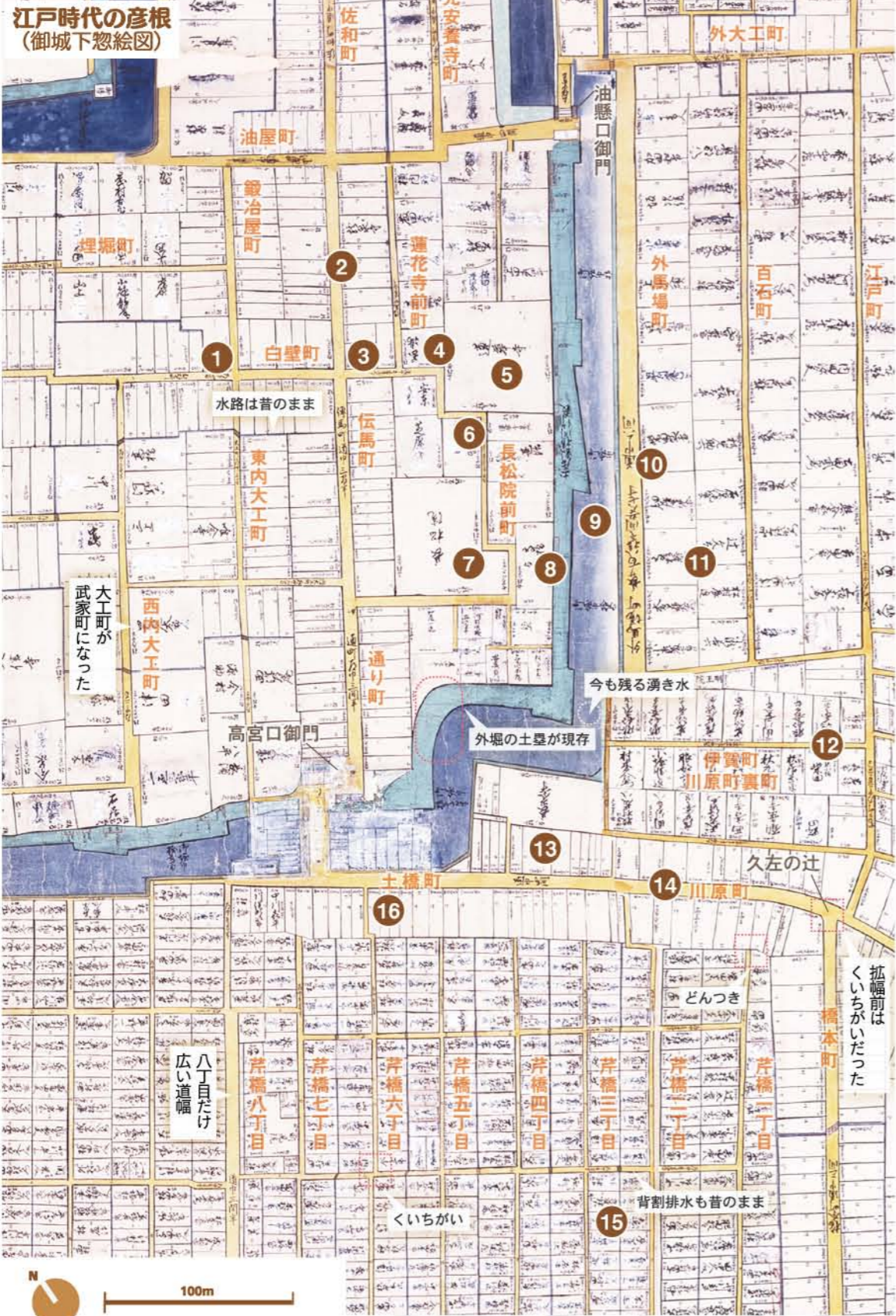
### 参考文献

『新修彦根市史 第10巻 景観編』（彦根市、2011年）／『新修彦根市史 第11巻 民俗編』（彦根市、2012年）／『彦根 明治の古地図 三』（彦根市、2003年）／『彦根の近世社寺建築』（彦根市教育委員会、1983年）／『彦根の先賢』（彦根市立教育研究所、1987年）／柴田實監修『日本歴史地名大系 25 滋賀県の地名』（平凡社、1991年）／彦根史談会編『城下町彦根一街道と町並ー』（サンライズ出版、2002年）／石田潤一郎ほか『湖国のモダン建築』（京都新聞出版センター、2009年）／山口正之『忍者の生活』（雄山閣、1963年）

このマップは、彦根城フェス公募イベントの一環として、彦根市の助成を受けて制作しました。「御城下惣絵図」は、彦根城博物館の許可を得て掲載しています。

ごじょうかそうえず  
「御城下惣絵図」とは？

江戸時代の彦根城下町の様子をもっとも詳細に伝える古地図。天保7(1836)年、彦根藩の普請奉行らによって作られました。屋敷の持ち主の名前が書かれているのは武家屋敷や寺院など、書かれていないのは町人の住まいです。道幅や堀幅、屋敷の間口などの寸法まで書かれています。彦根城博物館所蔵。



**16** **ビルの際間の路地**  
銀座から裏側に抜ける4つの路地は、少し位置が変わっているものもあるが、すべて江戸時代からの道である。



**15** **善利組足軽屋敷**  
銀座の南側は、かつて足軽が住んでいた地域の一部。わずかだが江戸時代の足軽屋敷が残っている。細い路地が特徴。



**14** **銀座防災街区**  
昭和36~48年、木造の町並みを鉄筋コンクリートのビル街に建て替えた。当時制定された防災街区造成法を全国に先駆けて取り入れたもの。



**13** **滋賀銀行彦根支店**  
大正14年、百三十三銀行本店として建てられた。当時は珍しかった鉄筋コンクリート造。装飾を抑え、石張りの壁の存在感を際立たせている。



**12** **伊賀町**  
井伊家の重臣三浦元貞が、大坂の陣で活躍した伊賀忍者たちに土地を与え、伊賀町ができた。近くの長光寺は、伊賀から本尊を移して創建された。



**11** **千代神社**  
ご祭神は天孫受売命(あめのうずめのみこと)で、芸能の神様として信仰を集めている。1638年造営の本殿は国の重要文化財。昭和41年、現在地へ遷座。



**10** **彦根訓盲院跡**  
明治41年、自身も目が見えない山本清一郎が、外馬場町の民家を借りて滋賀県初の盲学校を開いた。現在の県立盲学校の前身。



**9** **外馬場公園**  
かつて彦根城の外堀だったが、昭和20年代に埋められ、現在は公園に。コンクリート製の卓球台がある。



**8** **金亀会館**  
藩校弘道館の講堂。現在の西中学校運動場にあったが、大正12年、現在地に移築された。藩校唯一の現存建物で、市指定文化財。



**7** **長松院**  
1602年、井伊直政が芹川の中洲で茶肆に付され、その跡に創建された。境内に直政の灰塚塔がある。



**6** **醤油屋の蔵**  
明治時代に建てられた醤油屋の蔵が残る。ジグザグの細い路地は江戸時代のまま。



**5** **蓮華寺**  
井伊直政が上野国箕輪城主だったころに建立され、直政に従って高崎、さらに彦根に移った。現在の本堂は1766年に再建されたもの。



**1** **俳遊館**  
大正12年、彦根信用組合本店として建てられた。簡潔な装飾が美しい。1996年からは俳句を学ぶ施設になっている。カラムも体験できる。



**2** **中央商店街**  
彦根を代表する商店街のひとつ。江戸時代は伝馬町・通り町、明治から昭和までは一番町だった。昭和48~58年、現在の道幅に拡幅された。



**3** **高札場跡**  
江戸時代、幕府の基本的な法令を掲げた高札場が設けられていた。鳥居本・高宮まで荷物を運ぶ駄賃も示されていた。



**4** **杉本家住宅**  
彦根藩の表医師岡島家の屋敷で、江戸時代の建物が残っている。昭和初期も医院として使われていた。屋根に鍾馭さんがいる。